

## 第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月10日(火) 5校時  
場 所 2年3組 教室  
指 導 者 村田 愛

研究主題 豊かな表現力を育むための授業改善  
～読むこと・書くことを中心に～

## 1 単元名 「絵を見てお話を作ろう」

## 2 指導の立場

本学級の児童は、日記や朝自習、学習の振り返りなどの「書く活動」で、経験したことや想像したこと、自分の思いや考えなどについて文章を書いてきた。「はじめ」「なか」「おわり」の構成を考えながら、「だれに」「何を伝えるのか」という目的意識や相手意識をもって書く活動を体験してきている。また、順序に気をつけて書いたり、順序を表す言葉を使ったりしながら書く児童も見られるようになってきた。さらに、授業後や帰りの会などで児童の文章を紹介する場면을積極的に設けることで、自分の文章を読んでもらい、それを教師や友だちに称賛されることで、書いたり伝えたりすることの喜びや楽しさを感じている児童もいる。しかし、書く題材をなかなか見つけられない児童や内容がふくらまない児童、楽しんで書くことができない児童も見られる。

本単元は、三枚の絵を手がかりに、三つの場面の人物の行動や会話、出来事のつながりが読み手に伝わるように書くことをねらいとしている。三枚の絵のそれぞれの場面の様子を想像して、詳しく説明する文章を書くだけでは一つの物語にはならない。場面と場面がつながるように物語の展開を考え、適切な接続表現を用いることを意識して取り組むことが大切である。また、書く活動を通して、自分の思いを伝える楽しさや、それらを発表し合うことによって評価される喜びなどを実感させることが重要である。そうすることで、児童が進んで書くことや表現する喜び、よりよく表現したいという願いをもつことができるようになるのである。

そこで、指導上の留意点として、

- 短作文や日記、授業後の振り返りなどで時間を設けて文章を書く機会を増やすことで、書くことに慣れさせる。
- 「はじめ」「なか」「おわり」の構成を色別短冊やワークシートを使って視覚的に捉えさせ、段落構成やつながりのある文章を書きやすくする。
- 学習の形態をペア学習にしたり、グッドモデルを紹介したりすることを通して、児童のつまづきを軽減する。
- 児童のグッドモデルを効果的に紹介できるように、常時ICT環境を整えておく。
- 最後に発表会を行うことを告げ、相手意識や目的意識を明確にもってお話作りに取り組めるようにする。また、児童による相互評価や自己評価をしながら交流できるようにする。

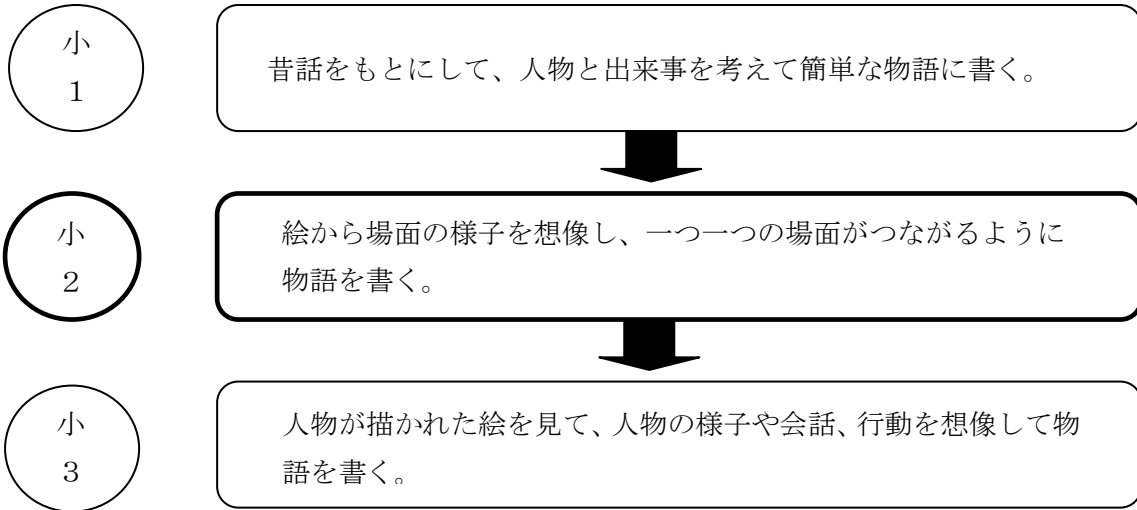
## 3 単元の目標

絵から場面の様子を想像し、文と文との続き方に気をつけて、一つ一つの場面がつながるように物語を書くことができる。

#### 4 評価規準

- 関・絵から想像したことをもとに物語を書くことに関心を持ち、進んで取り組もうとしている。
- 書・絵を見て想像を膨らませながら、場面の様子や人物について考えている。
  - ・想像したことをもとに、事柄の順序に沿って話の構成を考えている。
  - ・場面の様子がよく分かるように人物の行動や会話のつながりを考えて物語を書いている。
- 言・句読点の打ち方や、かぎ（「 」）の使い方を理解して文章の中で使っている。

#### 5 前後の学習の関係



#### 6 指導計画（総時数 9 時間）

時		学習活動
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵をもとに場面の様子を想像して、場面と場面とがつながるように物語を書くという学習課題を確かめる。</li> <li>・教科書 P 25 の絵を見て想像を膨らませる。</li> <li>・発表会への見通しをもつ。</li> </ul>
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の例を参考にして、物語の書き方を理解する。</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像したことをもとに、物語の内容を決めて、②の場面の物語を書く。</li> </ul>
第三次	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 P 28 の 3 枚の絵から、場面の様子や人物の行動、会話の内容などを想像する。</li> <li>・それぞれの人物の会話を想像して色短冊に書く（ペア学習）。</li> </ul>
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色短冊を並べて作文メモを作る（ペア学習）。</li> <li>・三つの場面のつながりに気をつけて、「はじめ」「なか」の物語を書く（個別学習）。</li> </ul>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの場面のつながりに気をつけて、「なか」「おわり」の物語を書く（個別学習）。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章を読み返して分かりやすく書けているか、誤字脱字がないかなどを確かめる。</li> </ul>
第四次	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会を行い、相互評価や自己評価をする。</li> </ul>
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵から想像を広げて、場面と場面がつながるように物語を書くことができたかを振り返る。</li> </ul>

1 **ねらい**  
絵とメモをもとに、場面と場面がつながるように物語を書くことができる。

2 **準備物**  
色短冊、ワークシート  
模造紙、プロジェクター  
タブレット型端末

3 **評価**  
☑絵とメモをもとに場面と場面がつながるように物語を書いている。  
☑句読点の打ち方やかぎの使い方を理解して、文章の中で使っている。

模造紙

「あひるさんのところに  
あそびに行こう。」

◎かぎの使い方

「あひるさんのところに  
あそびに行こう。」

場めんと場めんがつながるように

はじめ ある日  
なか そこで  
おわり ころから ころが ころして

絵と作文メモをもとにお話を書こう。

絵を見てお話を作ろう

本時の流れ(学習活動・内容 指導上の留意点)

- これまでの学習を振り返り、本時のめあてをたしかめる。
  - めあての確認
  - 単元の見直し
  - 本時の流れ

○一時間の見直しをもち、意欲的に取り組めるよう声かけをする。
- 作文メモに色短冊を並べる。
  - 「はじめ」「なか」「おわり」の構成
  - 場面設定
  - お話の流れ
  - メモの追加、訂正

○「はじめ」「なか」「おわり」の構成を、メモを指さしながら意識させ、お話全体の流れをイメージしやすくする。

○ペア学習で児童のつまずきを軽減する。
- 場面と場面のつなぎ方を確認する。
  - 時、場所の変化
  - つなぐ言葉の種類
  - 会話文の書き方(「」の使い方)

○これまで学習してきた接続表現を活用して書くことや、場面と場面、出来事と出来事をつなぐりを意識させる。
- 物語を書く。
  - 「はじめ」の書き出し
  - 会話文の書き方(「」の使い方)
  - つなぐ言葉の活用

○ペア学習で完成させた組み立てメモをもとに個別に物語を書かせる。

○つまずきのある児童には、ICT機器を用い、児童のグッドモデルの良い点を具体的、視覚的に捉えさせる。

○一つの場面を書き終えることに読み直させ、場面と場面がつながっているか確認させる。
- 本時の学習をふり返る。
  - 自己のふり返り

○進度の速い児童の物語を紹介し、良い点を具体的に示す。

○本時のめあてに沿ってふり返りをしやすいように観点を提示する。

○次時の学習に向けて意欲がもてるような声かけをする。

# 第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月10日(火) 5校時  
場 所 5年3組 教室  
指 導 者 坂本 祐介

研究主題 豊かな表現力を育むための授業改善  
～読むこと・書くことを中心に～

## 1 単元名 「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」

### 2 指導の立場

本学級の児童はこれまで、5年「動物の体と気候」の学習で、序論・本論・結論の構成を捉え、文章全体の要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりする活動をしてきている。書くスピードが上がるとともに、自分なりに言葉を付け加えたり除いたりしながら言葉の選択をし、まとめているようにも見られ始めた。しかし、書き終えた後の内容に膨らみがなく、事実の羅列のみの内容にとどまっていることも少なくない。また、構成が整っていない文章も多く、大事な言葉を落としていたり、条件に沿って文章を書くことを苦手にしたりにしている児童が多くみられる。

本単元では複数の本や資料を、目的を意識して読んだり、伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明したりすることをねらいとしている。本教材は和菓子を題材とした序論・本論・結論の構成が明確な文章である。本論の「和菓子の歴史」「ほかの文化とのかかわり」「支える人々」の三つの観点から説明する構成は、その後の調べ学習へつなげやすい。興味をもって必要な情報を選んで説明の構成を考えたり、内容や目的に合わせて資料の形式を工夫したりするのに適した教材である。観点に沿って調べた情報を整理し、選択・組み合わせ、文章全体の構成の効果を推敲しながら発表原稿を作成することで伝える喜びを感じることができるのである。

教材文を読み取り、調べた内容を発表するためには、自分の考えを他者に明確に伝えなければならない。そのため、指導する際には、自分の考えをわかりやすく効果的にまとめて書く活動に重点を置く必要があると考えた。

そこで、指導上の留意点として、

- 「和の文化」に対する筆者の考えと、「和の文化」を調べる観点の読み取りに気を付け全文を音読させることで、見通しをもって学習計画を立てるようにする。
- 和の文化に関する本を用意し、並行読書や調べ学習ができるようにしたり、教室に和の文化を掲示したりすることで、児童が「和の文化」を身近に感じ、学習意欲が高まるようにする。
- 色短冊を使い構成メモを書く活動を行うことで、伝えたいことを明確にしながらか構成を考えることができるようにする。
- グッドモデルを紹介することで、児童の学習へのつまづきを軽減できるようにする。
- 発表原稿の推敲と資料の提示の仕方を見直させることで、自分の思いが聞き手により明確に伝わるようにする。

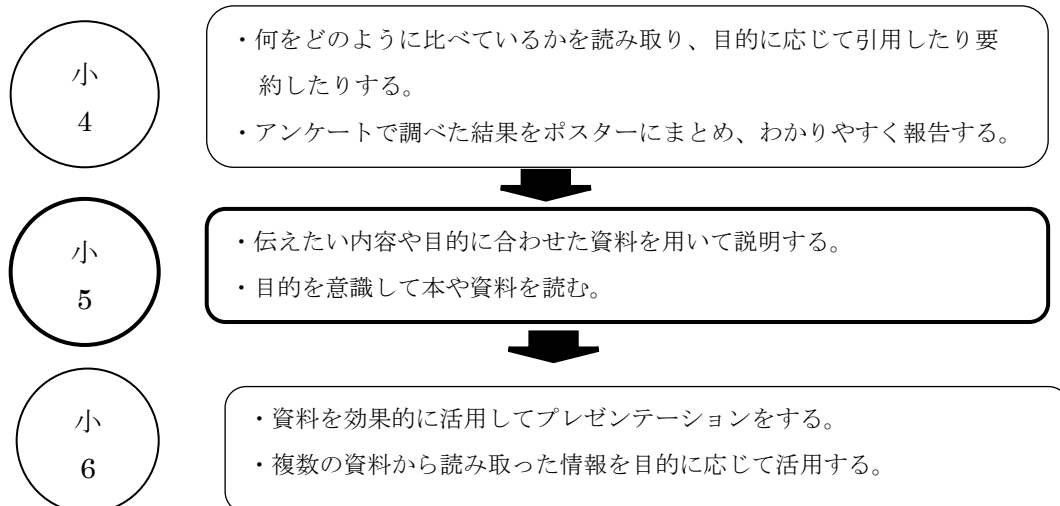
### 3 単元の目標

複数の本や資料を、目的を意識して読むことができるとともに、伝えたい内容や目的に合わせて資料を活用して説明することができる。

#### 4 評価規準

- 読**・いろいろなテーマの本や資料を目的を意識して読んでいる。  
 ・自分の課題を解決するために、複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を選んでいる。
- 書**・伝えたい内容や目的に合わせて、発表原稿を推敲している。  
 ・書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言をしている。
- 話聞**・集めた情報を観点ごとに整理し、必要な情報を選んだり組み合わせたりしている。  
 ・事柄が明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。

#### 5 前後の学習の関係



#### 6 指導計画（総時数 13 時間）

時		学習活動
第一次	1	・「和の文化」に対する筆者の考えと、「和の文化」を調べる観点の読み取りを意識させ全文を通読し、見通しがもてるよう学習計画を立てる。
第二次	2	・序論と本論①に当たる説明の観点「和菓子の歴史」についてまとめる。
	3	・本論②に当たる説明の観点「ほかの文化とのかかわり」についてまとめる。
	4	・本論③に当たる説明の観点「支える人々」をまとめ、資料のよさを話し合う。
	5	・結論部分を読んで文章の要旨をまとめ、文章構成図を作成する。
第三次	6	・発表会で取り上げる題材に沿って必要な情報を集め、色短冊にまとめる。
	7	・山下さんの発表の構成を参考にして、観点を話し合う。
第四次	8 本時	・観点に合った情報の整理をし、選択・組み合わせ、説明する内容の構成を考える。
	9	・教科書 P155 の発表の構成と P156 の発表原稿のつながりを理解し、発表原稿を作成する見通しをもつ。
	10	・P156~P158 の例を見て発表原稿の書き方を確かめ発表原稿と資料を作成する。
	11	・発表の練習をし、内容が明確に伝わるように説明の仕方を工夫する。
第五次	12	・説明会を開き「和の文化」について調べたことを発表する。
	13	・伝えたい内容や目的に合わせて情報を集め、説明する内容の構成ができたかを振り返る。

付けたい力…伝えたいことを明確にするために、内容の構成を考えて発表の原稿を書くことができる。

**1 ねらい**  
調べたことをもとに、発表の内容の構成をつくることができる。

**2 準備物**  
山下さんのグループの発表構成ワークシート、色短冊、拡大ワークシート・短冊

**3 評価**  
伝えたいことを意識して、事柄が明確に伝わるように発表の構成や必要な資料を考えることができるか。

**和の文化を受けつぐ**

発表の構成と、説明に必要な資料について考えよう

山下さんのグループ発表の構成(p155)

- ・ 時間配分
- ・ 説明の内容
- ・ 資料の選択
- ・ 役割決め

**発表の構成をしよう**

① 選択をする

② 組み合わせる

③ 説明の順番

**グループの役割決め**

**グッドモデル**

- ・ 内容がうまくまとめられている。
- ・ 資料が使われている。
- ・ 決められた時間内での発表。

本時の流れ(学習活動・内容・指導上の留意点)

- 1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。
  - ・ 前時までの学習の振り返り
  - ・ めあての確認
  - ・ 本時の流れ

○ 山下さんのグループ発表の構成を提示し、本時の流れをイメージさせる。
- 2 説明の内容、必要な資料を整える。
  - ・ 時間配分
  - ・ 内容と資料の取捨選択
  - ・ 内容の構成
  - ・ 説明の順番

○ 構成を工夫させるために、内容の選択

  - ・ 組み合わせ・順番に着目させる。

○ バッドモデルを提示し、説明の順番を意識させる。

○ 説明する内容に応じて、なるべく多様な種類の資料を用いるように促す。

○ 3グループに活動の結果を発表させる。
- 3 発表の構成を見直し、説明する分担と資料を用意する分担を決める。
  - ・ 組み合わせた短冊の順番
  - ・ 分担決め

○ 再度時間配分に着目し、組み合わせた短冊の中での順番を決めさせる。

○ グループの中で、前半と後半に発表する組を決めさせる。グループ全員に説明の担当をもたせる。

○ グループの中で司会をたてさせる。

○ 2グループに活動の結果を発表させる。
- 4 本時の学習の振り返りをする。
  - ・ 自己の振り返り
  - ・ 次時の学習の確認

○ グッドモデルを紹介し、児童の意欲をもたせる。

○ 次時の学習を確認し見通しをもたせる。

## 授業研究の考察

### 2 学年 3 組 国語 「絵を見てお話を作ろう」

【課題設定と取材】絵をもとに場面の様子を想像し、それをペア学習で友達と話すことによって想像を更にふくらませることができた。

【構成】「始め」「中」「終わり」の構成を色短冊やワークシートを使って視覚的に捉えさせたことで、段落や人物の会話がしっかり認識できていた。色短冊に付箋のりを使用して順番を容易に入れ替えられるようにしたことは、児童が組み立てを考えるのにとっても効果的であった。

【記述】「 」の使い方の指導については、タブレットでバッドモデルを示し、児童に直させることで理解が高まった。つなぎ言葉については、使う必要性が出てくる適当な文字数の原稿用紙を選択することについて課題が残った。そのため、ねらいの「場面と場面がつながるように書く」の達成が見られない児童もいたので、付けたい力についての意識を高めることがやはり大切である。

【推敲】書いたものを読み直して、自分の間違いに気付くことができた。どう直すのかを示す記号が曖昧になっていたので統一することが必要である。

【交流】児童の書いたものを全体に紹介し、良い点を具体的に見つけ合うことができた。それを基に、自分の書いたものを振り返ることができた。

### 5 学年 3 組 国語 「和の文化を受けつぐ」

【課題設定や取材】「和の文化について」の発表会を行うことの見通しをもち、調べたいことを決めた。個人で資料収集・取材した後、課題別に4～6人のグループを作り、一人ひとりの取材をもとに共通する課題を設定した。

【構成】教師がグッドモデルを提示し、グループごとに個人で取材したものを取捨選択し、発表原稿の骨子を決めた。話合いの中で、色短冊に書かれた小見出しをもとに構成し、プリントに貼り付けていった。付箋のりを使用することで自由に置き換えができるので、推敲しながら構成を深めることができた。

【記述】グループ内で小見出しを分担し、取材をもとにふくらませながら文章を書いた。聞き手が分かりやすいように表現を考えたり、視覚的にとらえられるように資料を選んだりした。

【推敲】各自が分担した文章を読み合い、意見交換をした。文と文とのつながりがスムーズで分かりやすい説明になっているか順番を考え、他者を意識して推敲し、何度も書き直しをした。

【交流】5グループの課題が異なり、興味深く聞き合うことができた。役割分担をして全員が発表した。色短冊の活用が意欲を深め、構成・推敲の力がついてきた。回を重ねるごとに、書くことの5段階が上手にできるようになり、作文の量が増えてきた。

## 学校全体での取組

### 研究主題

豊かな表現力を育むための授業改善 ～読むこと・書くことを中心に～

### 研究仮説

単元を通して児童に付けたい力を明示し、「書くこと」の指導事項5段階の指導を工夫して、書く機会を多く設ければ、児童は主体的に学習を進め、学んだことを活用した文章表現をする力が高まるのではないか。

### 内容と方法

- 1 付けたい力の明示
  - ①指導案の中に単元を通して付けたい力を明示する。
  - ②学習計画を立て、見通しをもって、学習を進められるようにする。
- 2 学習指導要領の「書くこと」の指導事項5段階の工夫
  - ①取材メモ、構成メモ、グッドモデル、推敲の観点、交流の観点を学年に応じて工夫する。
  - ②色別短冊、付箋、ワークシートを活用して視覚化を図る。
- 3 書く機会の設定
  - ①国語科の授業後の振り返りは、めあての実現について学年に応じた書き方の条件で記述する機会を増やす。
  - ②「話すこと・聞くこと」「読むこと」の授業や他教科の授業でも記述する場を意識して設ける。
  - ③短作文を週に1回程度行う。(100マス作文など)
- 4 学習の系統性の重視
  - ①学年の単元構成の系統性を確認する。
  - ②学年間の系統性→教科書では、学習内容がどの学年でどのように取り上げられているのかを洗い出して授業に生かす。(冊子作り)
- 5 その他の具体的な取組
  - ・学年ごとの「書くこと」の系統配列を学習指導要領で確認する。
  - ・全学年の教科書、取材と構成のワークシート、組み立てメモ用の色短冊のストック、作文用紙などを職員室の活用しやすい位置に置く。

このような取組を続けてきたところ、書くことに抵抗がある児童が減り、特に文の構成や交流を楽しむ姿が見られるようになった。また、他教科でも記述式の問題に対する無回答が減った。これからも継続してこの取組を行い、更には、書いた内容の質を高めるために推敲の指導に力を入れていきたい。